

村祭り

村の祭りは十月十八、十九の二日間、十九日が本格やった。神社の境内にのぼりがたてられ各家の戸口には名前の入った提燈がさげられた。

台所は二、三日前からてんてこまいやったが、そのいそがしさも結構嬉しいもんなやさ。

祭りの日、この日を待ちわびてござった親類や縁者が次つぎとやってござった。

用意といった御馳走を腹いっぱい食べてもらって、なごやかな気分の中で酒も存分にふるまった。

帰らさせる時は、三の重(三つの重箱)に寿司や赤飯、煮つけたものをいっぱい詰め込んで持って帰ってもらったんやさ。

なにかと大へんなんやけど祭りが待ちどおしかったわな。

重箱の数は、家によってまちまちやったそう。

呼んだり呼ばれたりして親類つき合いは大事にした。



七十六歳の知人と交わした雑談の中から抜粋し、「村祭り」にまこめてみました。

あの頃の『広報あんぱち』～平成4年11月号の記事より～

交通事故防止を心がけて ～交通ママさん交通安全教室開かれる～



あの頃を振り返って

安八町西結 在住
高橋 久子 さん

当時、私たちの生活を取り巻く車社会の環境は、一家に一台から一人に一台へと移り変わっていました。そのため、私たち『交通ママさんクラブ』も運行前の安全確認やタイヤチェーンの装脱着技術の習得等、車社会の一員として真剣に学んだことを思い出しました。

◎当時、高橋久子さんは安八町婦人消防・交通ママさんの幹部としてご活躍されていました。



▲表紙



▲交通ママさん交通安全教室開かれる (まちのトピックス)